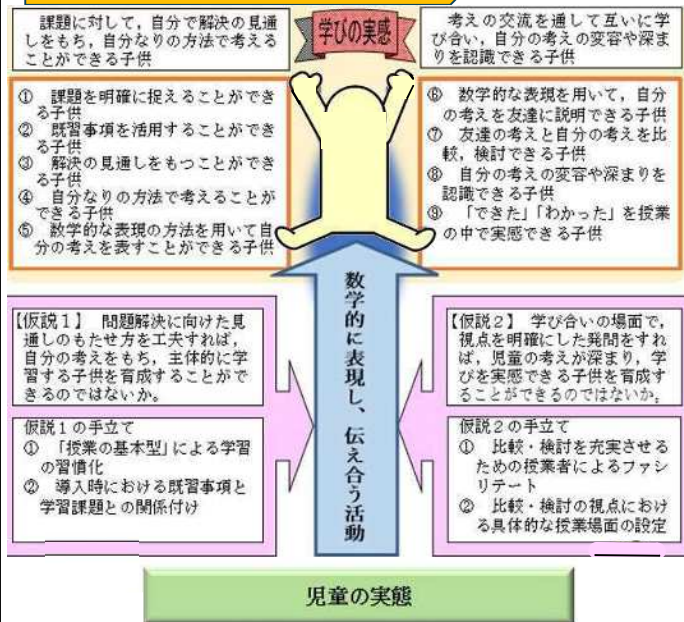


令和4・5年度 大島地区指定「指導方法改善」研究協力校 奄美市立節田小学校 公開研究会

令和6年2月14日（水）公開

自分の考えをもち、学びを実感することができる子供の育成
～数学的に表現し伝え合う活動を通して～

目指す子供像と学びの構造図



全体会の様子



第2学年研究授業



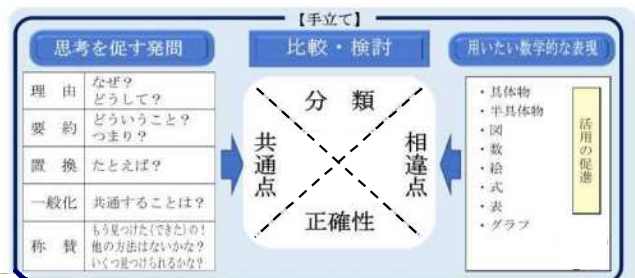
児童の実態や必要に応じて、教師はファシリテートし、学び合いの充実を図りました。

研究の仮説と手立て

【仮説1】 問題解決に向けた見通しのもとせ方を工夫すれば、自分の考えをもち、主体的に学習する子供を育成することができるのではないか。



【仮説2】 学び合いの場面で、視点を明確にした発問をすれば、児童の考えが深まり、学びを実感できる子供を育成することができるのではないか。



見通しのもとせ方の工夫や、学び合いの視点、ファシリテートについて研究を深めることで、自分の考えをもち、学びを実感することができる子供の育成を目指しました。

第3・4学年研究授業



3年生は共通点、4年生は正確性の視点で活発な学び合いができました。

参加された先生方より

- 子供たちの様子をしっかりと見て、臨機応変に対応される教師のファシリテーションスキルが素晴らしかったです。見通しをもって主体的に考え、解決しようとする子供たちの様子を見ていて、日頃から学級経営がしっかりされていることが分かりました。難しい内容の授業だったと思いますが、先生の熱意が子供たちにも伝わり、一生懸命頑張っている姿に感動しました。
- グループ協議で、他の先生方のさまざまな見方や考え方に触れることができました。ファシリテート、勉強になりました。
- 発表の仕方等しつけから始まり、テンポの良い授業で子供たちから言葉を引き出す発問、子供たちへの声かけ、ミーティングのような課題解決場面、子供たちの一生懸命な姿など良いものをたくさん見せていただきました。良い刺激をもらいました。